

サボっていても

えんちよう こうち たかし
園長 高地 敬

「ヘウレーカ」という番組が、教育テレビで昨年3月まで放送されていました。
ちゃんと見ていたのではなくて、たまたま見て、毎回かなり考えさせられました。
自然科学などの研究者が身近な謎を解き明かし、それだけでなく、その意味を
と問いかけていました。

昆虫の生態についての時だっと思います。アリの観察していると、普通に働
いているアリは6割、とってもよく働いているアリは2割、残りの2割は全然働
かないのだそうです。よくそんな観察ができるなと感心しますが、この比率は群
れの大きさによるのだそうです。群れが小さいと、働かないアリの比率が小さく
なるのだっと思います。アリはみんなぞろぞろ歩いて何かを運んで、多分巢の
中でも忙しくしているのだと思っていましたが、働かないアリがいるなんて想像
もしませんでした。ただ、全然働かず動きもしないアリは、サボっているわけでは
なくて、群れに災難が起こったときに群れのためにがんばるのだそうです。もっと
大きいアリが襲ってきたときや雨が降ってきたようなときでしょうか。そんな時に
こそ動けるように、普段はじっとしていてエネルギーを温存し、危機的状況の中
で体を張って群れを守る。アリはみんな同じに見えますが、役割分担がしっかり
しているようです。

アリと違って、子どもたちはみんな個性豊かです。ただ、大人には分からない
役割分担がしっかりできているのかも知れません。そして、動きの速い子もゆっ
くりの子も、どの子も大事な役割を今、担っていますし、これからの人生でも
大切な一人ひとりとして、神さまに見えていただいています。